

平成21年度能勢町一般会計歳入歳出決算認定について

賛成討論

美谷 芳昭

21年度の執行内容から見ますと、効果が上がっているもの、また、少し疑問が感じられ次年度に向けて検討を要するものもありますが、総じていえば概ね適正に執行されていたものと解されます。なお、歳入において、依然、交付税に頼っているものの、健全化比率は現在のところ基準内で特に問題はありませんが、経常収支比率、並びに財政力指数が悪化しており、今後は町税の収納率を上げる努力、並びに不納欠損処理の適正化、さらなる経費の削減努力等を進めていただく事を要望し、賛成の討論とします。

賛成討論

長尾 義和

決算認定の前提となるべきものは、平成21年度一般会計の議決予算であり、この予算編成にあたっては、限られた歳入をもって歳出予算を編成するということを第一義として、施策の集中と選択を図り「能勢町版骨太の方針2008」に基づいて予算編成されたものである。

予算の執行にあたっては、議決予算の目的に従って執行されており、行政効果についても一定評価できるものである。なお、財政の健全性を示す各指標については、いずれも良好であるが、国の動向により大きく変動する要素もあるため、今後も適正な行政運営に努めていただきたい。

反対討論

高木 教夫

国内総生産が伸びなやみ、個人消費の低迷が続く中、本町におきましても、住民税・固定資産税の滞納繰り越し分が、平成20年は2%の滞納率が、平成21年は滞納率が2.6%に6%滞納率が高くなっています。

このような状況中でも基金の積み立ては、増額や、あるいは項目によっては貯め込み過ぎの様に思われるものがあります。本場に必要なお金をお金を使う事が大事であり、危険な通学路・予算の少ない奨学金・介護の利用をお金が無くて出来ない人、全体的に見て福祉関係の施策に乏しい様に思われますので反対の立場を取らせて頂きます。

反対討論

八木 修

これまでの行政は、予算を成立させることを重視し決算はないがしろにされていた。しかし近年は決算が重視されて、各事業の成果の評価がなされている。各部・教育委員会に取り組んだ事業の成果と積み残しを確認したが、成果を強調するだけだった。しかし50億円弱の予算で5億円以上のお金を余らせ、基金に積み立てている。財政部に押し切られ予算編成が硬直化している。本来もっと住民サービスができるはずで納得できない。